

サギタリウスチャレンジ チャレンジ部門

結果報告書

タイトル	～西陣の活性化に向けて～	
代表者	学部・学年	氏名
	経営学部 3年次生	末吉 恵利奈
企画概要	<p>京都の奥深さを知るにあたり、文化や伝統を誇る京都の町「西陣」にスポットを当てて自らで隠れ家的スポットを調査しました。京都の若い学生で好奇心あふれる人をターゲットに現代の若い人が楽しめる伝統・文化に触れる機会を設け、なおかつガイドブックには載っていないような隠れ家的スポットを紹介できる地図をメインに掲載したアートマップを作成することを目標とします。</p> <p>私たちは、京都のことをよく知るには大勢でにぎわう河原町付近だけではなく、他にもっと京都の伝統・文化の奥深さや魅力がたくさんあることに私たち自身が気づいて盛り上げていく必要があると考えます。そこで、私たちが注目したのは、西陣の織物や銭湯、町屋カフェなど歴史的背景も踏まえながら若者が楽しめる情報 Map を作り、その魅力を多くの人に伝え、実際に多くの学生が「西陣」へと足を運んでもらうことが私たちの願いです。</p>	
結果報告	<p>私たちはまず西陣をもっと詳しく知るという作業から始めました。インターネットや雑誌、ガイドブックを手掛かりにどのような店やお寺などがあるかを調べました。そして、グループ内でそれぞれ行ってみたいところをピックアップしてリストを作成し、実際にリスト内のところを巡り、その場所付近で他にいいスポットがないか、自ら散策を始めました。それぞれの場所では初めから取材を行うのではなく、一般客としてお店や寺などを巡る作業を続け、後にグループ内で取材をしたいと感じたところにアポをとらせて頂き、取材をさせて頂きました。そして、最終決断として計7カ所を掲載することに決めました。また、西陣をよく知る本学の講師の方に散策のアドバイスを頂いたことを実践しようと、町で出会うお年寄りの方々に西陣の歴史や現状を積極的に聞いて回りました。数々の世間話をさせて頂いた内容をちょっとしたミニコラムにまとめたものや、より楽しんでもらえる要素として私たちは女性、男性同士やカップルでお店を回れるような3つのコース提案も掲載しています。</p> <p>アートマップを製作するにあたっては、印刷会社のテンプレートなどを使用しないですべて自らでデザインをしました。西陣というイメージである紫や緑を使うという概念に囚われず、学生の目を引くようなポップなデザインにこだわり、サイズも持ち運んでもらいやすいように小さく作成しました。</p> <p>作成したアートマップは取材させて頂いたお店に置かせて頂き、また、まずは本学の学生の方に知ってもらいたいと思い、今後は、食堂または大学内で配布することを予定しています。正直、どれだけ学生に「西陣」へ足を運んでもらえたかは数字で見ることが出来ませんが、オリジナル感満載のアートマップを少しでも多くの学生の手にとってもらい、興味をもってもらえることを願っています。</p>	

感想

初めは、「西陣」という名前さえ知らず、本当に手探り状態のスタートでした。しかし、散策していくと魅力的なものは多く知らなかったなりの発見で得たものは大きかったです。西陣は入りくんだ細道が多く、車が1台通れるか通れないぐらいの細さ、道は昔ながらの石畳が見られ、趣きある風景がたくさんあるので、歩いているだけで楽しくなります。また、散策している途中に何度も織物に使用する木材道具をのせて走る軽トラックを見かけ、現代に残る京都文化を感じる事が出来ました。

取材を行なう中で感じたことは、利益をあまり追求せずにお店を運営されていることでした。店主に「どんなお店にしたいと考えていらっしゃいますか」と質問させて頂くと「とことんお店でくつろいで欲しい」「ある意味ダメなお店」「お酒を存分に楽しんでほしい」等の答えが返ってきました。そこには回転率という問題でなく、お客さんに時間を忘れて入り浸ってくれてもいい、そんな店主の思いが共通してありました。また、取材や原稿の確認などで3～4回ほどお店に伺わせてもらうため、店主と私たち学生の距離は縮まり、社会的常識の指摘、世間話、焼きたての焼き菓子などを頂ける機会があり、人との関わりの大切さを実感しました。

今回このプロジェクトを実行するにあたり、得たものはたくさんありました。その中でも特に大きかったものは、リーダーとしてチームを動かすマネジメント力です。今までこのようなポジションにつくことがなかった私は、この難しさというものをとても痛感しました。しかし、このサギタリウス・チャレンジに採択されなければ、このような経験も出来ませんでした。このような機会を大学生活の中で経験させて頂いたことをとても感謝しています。